

Ⅱ. 令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (尾鷲高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「個に応じ個を生かす教育の実践」 「当たり前のことが当たり前ででき、積極的に地域や社会に貢献する生徒の育成」
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 様々な進路希望を持つ生徒が、自らの目標の実現することができる生徒 身だしなみや言葉遣い、社会生活に必要なマナーが身に付いている生徒 卒業後、地域を支えるリーダーとなる人材としての資質が備わっている生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒それぞれの進路希望に対応した教育が実践できる教職員集団 社会生活を送る上での「当たり前」を実践し、生徒の範となっている教職員 保護者、地域から信頼され、目指す学校像に基づいた指導ができている教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 楽しい学校、よくわかり参画意欲の高まる授業、安心して学習できる環境</p> <p><地域(保護者を含む)> 進路希望の実現、地域を元気にする情報の発信 地域のリーダーとなる人材の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 進路希望を実現させる進学・就職指導</p> <p><中学校> 高校生活を通して成長し、生き生きとした生徒の育成</p>	<p><保護者> 教育活動への支援と協力</p> <p><中学校> 尾鷲高校への進学に向けた連携・協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> 地元の就職希望は少ないようだが、地域から1度は出ても、戻ってきてほしいという希望もある。地域としても協力していきたい。 進路指導について、子どもの幸せは地元と都会のどちらにあるのか、都会に行く方が生活弱者とならないのではないかと考えてしまう。人口減少の中でもしっかり仕事をして稼いでいる人もいる。そういう活動を紹介する活動も大切である。 授業で、生徒たちは落ち着いていてよかった。やはり少人数での授業はよい。 どの授業者もはっきりとした話し方で、大きな声で聞きやすかった。 授業の展開が速く、スムーズに進んでいるが、理解度にも留意する必要がある。 授業は昔のイメージとは違い、専門的なことをやっていて新鮮。力がつきそうだ。 共通テストの「情報」は大学進学にも対応できるようにする必要がある。 総合的な探究の時間における「まちいく」の取組は、生徒が自ら考え、協力し、意見を発表するなどの良い機会になっている。 コミュニケーション力を身につけるには授業以外の課外活動や部活動も重要である。 遠足の実施については、生徒たちは大変喜んだ。 部活動、スポーツなどの明るい話題を発信してほしい。 文化祭など、生徒が楽しく主体的に取り組める行事をさらに充実させてほしい SNSでのトラブルについては、情報モラルの指導も必要である。 ICTについては、小中学校でも端末を活用しており、数年後には使用に慣れた生徒たちが高校に入学してくる。教員による格差、学校間格差が大きくなるようにして、どの授業でも、どこの学校でも一定のレベルで取り組めることが求められる。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 一人一台端末をはじめとするICTの活用によって生徒の学習成果につながるような授業方法などについて、引き続き教職員間で研究・共有していく。 2 新教育課程での情報ビジネス科の授業内容の再構築について議論する。また、授業アンケートの実施について再検討する。 3 システム工学科での資格取得促進のため、検定試験の全員受験指導に取り組む。また、基礎学力定着のため、D3対象者だけではなくクラス全体を対象に、授業や補習などでの対策を確実にこなす。 4 人権教育の充実のため、人権教育推進協議会と紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議との位置づけの整理を検討する。 5 生徒指導に関するオンラインアンケートへの回答を期日までに収集できるよう、SHRの活用など、実施方法を工夫する。また、いじめについて積極的に認知するとともに、事前指導、事後指導、経過観察など情報共有を密に行なう。 6 生徒の進路希望実現のため、進路指導部と学年団との連携をさらに密にして、協力体制を強化する。また、継続的な進路情報の提供、計画的な企業見学、就職内定後の指導強化に取り組むとともに、進路ガイダンス等の日程調整にも留意する。 7 生徒には「挨拶」ができることを重点目標にしてきたが、委員からも褒めいただいたように、よくできてきている。挨拶の根底には自己肯定感が必要であるとの認識を持って、今後も生徒に関する教育活動に取り組むたい。
	学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の充実のため、生徒指導部と職員室等の情報共有を一層進める。また、講話や啓発活動などを積極的に実施し、生徒の規範意識を醸成する。 2 生徒会執行部の生徒を中心に、学校行事の工夫や校則の改善などに取り組む。 3 ホームページの更新に総務部員全員が対応できるようにし、更新回数を増やす。内容面でも、主に中学生が興味を持てるよう、学校全体に協力を求めながら様々な角度（特に部活動）からブログ等に情報を掲載する。「驚高人」は、発行回数を増やすよりも、発行時期などを考慮した効果的な情報発信となるよう早めに準備する。 4 情報ビジネス科の教科会については、各学期2回程度を目標に、質の充実を図る。 5 教職員の時間外労働の短縮のため、業務の精選・簡素化・効率化に取り組む。 6 教職員間の「報・連・相」は、各部内でも細かいことまで共有するのはなかなか難しいが、管理職への報告はスピーディである。引き続き重点目標としたい。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な学力レベルを引き上げ、各学科、コースの目指す学力の定着を図るため、日々の授業を大切にし、その充実をはかる。 ・進路指導における対話を重視し、生徒個々の進路実現に対する理解を深めさせる。 ・社会人として生きるためのマナー、人権感覚、命を大切にする心を育成する。 ・すべての教職員がICT機器を活用した教育に積極的に取り組む。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上に向け、各分掌の枠にとらわれず学校全体で取り組み、情報を共有する。 ・教職員のスキルアップのための校内研修会を定期的実施する。 ・職員の総勤務時間の縮減に取り組むとともに、業務全般について時間管理を意識した効率化を進め、生徒も職員も生き生きとした学校を目指す。 ・業務の円滑な引継ぎと職員間の連絡・報告・相談を徹底し、効率的な校務運営を行う。 ・風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。 ・尾鷲高校の魅力的な取組を保護者や中学校、地域に積極的に発信する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○日々の授業	<p>【取組内容】 学力定着のため年間自習を200時間以内に収める。</p> <p>【指標】 年度末に自習時間をカウントし、数値目標以内であれば達成</p>	<p>・体調不良等による突発的な年休が続き、目標達成は困難な状況である(1月末現在で197回)。ただし、時間割変更による対応は係担当が可能な限り調整を行った。</p>	△
○教員のICT機器活用	<p>【取組内容】 GoogleのウェブアプリケーションやICT機器(デジタル採点を含む)の利用を促進する。</p> <p>【指標】 年度末にアンケートを実施。80%以上の教員が利活用によって業務や授業の改善ができたと評価されれば達成。</p>	<p>・87.6%の教員が授業や業務が「とても改善した」、「やや改善した」と回答した。</p>	◎
○生徒(特に1、2年次生)のICT機器活用	<p>【取組内容】 Google Classroomを中心に、ドキュメントファイル等を用いた課題の作成、提出を日常的に使えるようにする。</p> <p>【指標】 年度末にアンケートを実施。習熟度を評価し、100%の生徒が十分に習熟していると評価できれば達成。</p>	<p>・アンケートは3月実施予定。年次に応じた活用が進んでおり、データ共有などはすでにできている。</p>	
○生徒指導	<p>【取組内容】 朝の挨拶運動や各集会、頭髪服装指導において、挨拶や言葉遣い、身だしなみを徹底し、コミュニケーション力や社会人としてのマナーの認識向上を図る。</p> <p>【指標】 生徒アンケートで9割の肯定的回答を得る。</p>	<p>・生徒アンケートでは肯定的回答は得られることはできた。</p>	○
○いじめ防止と早期発見	<p>【取組内容】 学年主任を通して、担任、関係教諭(状況に応じて授業担当者・部活動顧問等)と連携を図り、いじめの防止や早期発見、早期対処に当たる。</p> <p>【指標】 積極的に職員室に訪れ学年主任と情報共有を行なう。(欠席日数などの確認検証)学期毎にいじめに関するアンケートを実施する。</p>	<p>・情報共有を行い、いじめの認知を積極的に行うことができた。</p>	○

○教科による資格取得指導	<p>【指標】 1つ以上の資格を取得した生徒の割合を、80%以上にする。</p> <p>【取組内容】 全員受験指導、補習指導の実施。 ガス溶接(2年)80%以上 計算技術3級(1年)100% 危険物丙種(1年)80%以上の合格</p> <p>【指標】昨年度における合格率との比較</p>	<p>・ガス溶接(2年)受検者 28名全員合格。計算技術3級 23名中 22名合格。危険物丙種受験せず乙 4類を受検。23名中 1名合格。危険物取扱者において来年度から受験科目を変更または再考の必要あり。</p>	○
○学科における基礎学力定着指導	<p>【取組内容】 基礎力診断テストでの D3 対象者に補習を実施し、基礎学力の定着を目指す。</p> <p>【指標】 次回基礎力診断テストでの D3 対象者数を比較</p>	<p>・今年度は基礎学力の定着を目指した補習よりも各資格試験に力を入れた。生徒の状況により基礎学力定着を目指す補習の必要性も改めて感じた。</p>	△
○進路指導	<p>【取組内容】 希望進路(3年)の実現を目指し、システム工学科全教員による個別面接、学力向上の指導を実施。学校斡旋希望者の100%内定を得る。</p> <p>【指標】 昨年度における内定率との比較</p>	<p>・学校斡旋希望者の内定は100%であった。</p>	◎

改善課題

【教員のICT活用】デジタル採点システムも導入されたが、関心があるものの使用にはハードルを感じている教員も多く、普及のため工夫をしていく。

【生徒指導】身だしなみについて生徒間での意識の差があるため、一部の生徒でパーマや染色等がみられる。また指導の線引きが難しい状態があるため、共通した指導ができるよう共通理解を進めたい。

【いじめ防止】いじめ防止委員会を定期的に開催し、教育相談等と連携していく体制を構築したい。

【規範意識の醸成】規律を守ることの意味を理解させることができる取組をしていく必要がある。

【希望進路の実現】それぞれの進路希望に応じたサポートの在り方が今後の課題である。

【人権学習】小中の学びを踏まえた学習の在り方を考えたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○情報共有	<p>【取組内容】 週に1回部会を開き、その時々課題を整理整頓し、情報共有をすることにより問題行動の未然防止に努める。</p> <p>【指標】 部会の回数(30回)と過去3年間の特別指導の延べ人数の平均を下回る。</p>	<p>・特別指導の延べ人数を下回ることができなかった。</p>	×
○生徒会活動	<p>【取組内容】 生徒会担当の業務進捗状況を確認し、協力体制を構築する。また、アンケートを通じて、改善できる点を来年度に向け絞り込む。</p> <p>【指標】 行事ごとのアンケート8割の肯定的回答を得る。</p>	<p>・生徒アンケートでは肯定的回答を得ることができた。</p>	◎
○効率的な学校運営	<p>【取組内容】 アフターコロナを見据え、業務の簡素化・削減など、業務の整理を積極的に行う。</p> <p>【指標】 ・各業務の関連図を作成する。 ・2つ以上の業務について、マニュアルを作成する。</p>	<p>・各業務関連図の作成を試みたが、活用する意義を見出せず、作成は断念した。2つ以上の業務については細かな手順書を作成した。</p>	○
○学校情報の提供	<p>【取組内容】 ・効果的な広報活動を展開するため、広報物(パンフレット、ホームページ、驚高人など)を抜本的に見直す。 ・報道機関への積極的な情報提供をする。</p> <p>【指標】 ・1つ以上の広報物をリニューアルする ・月1回以上、報道される</p>	<p>・「驚高人」を刷新しA4両面フルカラーチラシ印刷への改善をした。メディアへの情報提供を行い、月1回以上報道された。</p>	◎
○保護者向けの人権通信「素心」を発行する	<p>【取組内容】 保護者宛の人権通信「素心」を発行し、啓発活動を推進する。</p> <p>【指標】 年度末に発行回数や内容を検証する。</p>	<p>・1学期末に発行。年度末にも発行を予定している。学期ごとだけでなく、関連行事なども取り上げ、内容を充実させた。</p>	○
○教職員向けの人権通信「勿忘草」を発行する	<p>【取組内容】 教職員宛の人権通信「勿忘草」を発行し、日々の授業改善の一助とする。</p> <p>【指標】 年度末に発行回数や内容を検証する。</p>	<p>・年度末に発行予定。発行回数を増やしていきたい。</p>	△

<p>○教職員対象の研修の充実を図る。</p>	<p>【取組内容】 人権問題への認識を深めるため、人権教育課とも連携を図り、研修会を実施する。</p> <p>【指標】 事後アンケート等を実施する。年度末に内容を検討する。</p>	<p>・研修後のアンケートは実施できていないが、北朝鮮当局による拉致問題に関する研修など、多くの研修会を提案することができた。関係機関と連携した研修を早めに周知し、多くの教職員の参加を促したい。</p>	<p>○</p>
<p>○教科会の活用</p>	<p>【取組内容】 定期テストを目途に教科会を開催し、各々の授業の進捗について情報共有と意見交換をおこなう。</p> <p>【指標】 定期テスト中またはテスト後に開催する(年5回以上)</p>	<p>・定期テスト後に予定どおり実施することができた。</p>	<p>○</p>
<p>○総勤務時間の縮減</p>	<p>【取組内容】 業務の精選・効率化・平準化を進め、時間外労働の縮減を図る。また、教職員の休暇取得を促進する。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に閉校日を計3日設け、いずれの日も 80%以上の教職員が終日休暇を取得する。 ・月1回程度の定時退校日を設け、80%以上の教職員が定時退校する。 ・すべての部活動が週1回以上の休養日を設ける。 ・放課後に行う会議の70%以上を60分以内に終了する。 ・4～12月の休暇(年休・特別休暇)の取得日数を一人平均15日以上とする。 ・1人あたり時間外労働時間を月平均30時間以下にする。 ・月45時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする。 ・年360時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする。 	<p>・学校閉校日は4日設定。冬季休業期間の閉校日は60%台であったが、夏季休業期間中は80%を超える取得があった。</p> <p>・平均69%であった。</p> <p>・休養日を設定することができた。</p> <p>・60分以内の終了は7.5%であった。</p> <p>・年休9.1日、夏季休4.5日。</p> <p>・1月末現在月平均16.9時間。</p> <p>・月45時間超はのべ113人、平均12.5人であった。</p> <p>・1月末時点で19人。</p>	<p>△</p>

改善課題

【生徒指導（情報共有）】 問題行動の未然防止について、集会などを通じて生徒指導を行う必要がある。また、SNSの利用方法やコミュニケーション能力の向上に向けた取り組みが必要。

【生徒会活動】 生徒数の減少に伴い、行事でのチーム編成などを考える必要がある。

【効率的な学校運営】 業務の削減や内容の簡素化については職員間の合意形成が必要。

【学校情報の提供】より効果的な学校PRについて研究が必要。

【総勤務時間の縮減】定時退校週間を設定するなど、定時退校しやすいように取り組んだが、目標に届かなかった。業務の精選をさらに進める必要がある。

5 学校関係者評価

明らかにになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・ICTの利活用について、データ共有なども進んでいるようであるが、引き続き活用を続けていただきたい。・学びの保証として、自習時間の削減に努めていただきたい。・いじめの未然防止の観点から、生徒が相談しやすい環境を構築してほしい。・尾鷲高校の生徒は町の中でもよく挨拶してくれる。挨拶ができる生徒をはぐくむことは大切である。・SNSトラブルの防止に努めてほしい。・総勤務時間縮減について、教育の質を落とさずにどのように業務改善等を進めていくのか。・まちいくやキャリア教育講演会など、地域の社会人と触れ合う機会を多く作ってほしい。
----------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ICTの利活用によって生徒の学習成果につながるような授業方法等について、引き続き教職員間で研究・共有していく。・生徒指導に関して、共通した指導ができるよう情報共有等を通じて、共通理解をさらに進めていく。・生徒の進路希望実現のため、それぞれの進路希望に応じたサポート体制をより強化する必要がある。・人権学習について、小中学校での学びを踏まえた学習を構築する。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・行事等でのチーム編成等において、生徒数の減少により従来通りの編成が困難なことが生じることが予想される。今後どのように対応していくか検討しなければならない。・教職員の時間外勤務縮減に向け、さらに業務の精選・簡素化・効率化に取り組む必要がある。・中学校卒業予定者の今後の減少を見据え、本校の今後の在りから（学びの在り方や学科構成）について、議論を進めていく必要がある。